

平成24年度 科学研究費助成事業採択状況

平成24年度の科学研究費助成事業について、新規応募総数86,874件のうち24,673件が採択されました。本学園の採択件数は大学28件(継続17件、新規11件)、短期大学1件(継続1件)でした。

科学研究費助成事業は、人文・社会科学から自然科学まで全ての分野にわたり、基礎から応用までの「学術研究」を格段に発展させることを目的とする「競争的研究資金」です。独創的・先駆的な研究であるかの審査を経て採択された研究に対して助成が行われます。神戸女子大学の採択金額の合計は40,430千円であり、採択される件数は、増加の一途を辿っています。

種目	研究代表者	研究課題名
基盤研究(B)	文学部・教授 大谷 節子	能・狂言面の創出と派生に関する学際的研究
基盤研究(C)	文学部・教授 永瀧 朋枝	婦人雑誌にみる文学・ジェンダー・メディアの交差 —藤村「処女地」執筆調査より—
基盤研究(C)	文学部・教授 松下 孝昭	近代日本の都市地域社会と市政 —大阪・京都・神戸の比較研究—
基盤研究(C)	文学部・准教授 小原 依子	リハビリテーション病院等における音楽療法の効果判定に関する実践的研究
基盤研究(C)	健康福祉学部・教授 瀬口 春道	亜鉛・ビタミンE、Cの複合摂取による血圧上昇及び血管肥厚抑制効果
基盤研究(C)	文学部・教授 狩野 恭	ジュニャーナシュリートラ「主宰神論」の研究
基盤研究(C)	文学部・教授 今井 修平	畿内近国小藩領における大庄屋機能の研究 —播州福本藩領瀬野金兵衛家の活動を中心に—
基盤研究(C)	健康福祉学部・准教授 曾田 里美	児童養護施設におけるライフストーリーワーク実践に関する基礎的研究
基盤研究(C)	家政学部・教授 瀬口 正晴	グルテンフリー膨化食品の研究
基盤研究(C)	家政学部・教授 堀田 久子	柑橘類搾汁残渣の有効利用について
基盤研究(C)	文学部・教授 木下 由紀子	世紀転換期における形而上的文化交流の形 —岡倉天心とヴァージニア・ウルフの芸術観
基盤研究(C)	文学部・准教授 山内 晋次	硫黄流通からみた古代・中世の日本とアジア
基盤研究(C)	文学部・教授 大橋 喜美子	幼保一体化に向けた保育カリキュラム・モデルの構築
基盤研究(C)	家政学部・教授 山根 千弘	ナノ食品 —木質ハルブから構造制御されて得た機能性食品材料—
基盤研究(C)	家政学部・准教授 大森 正子	脳機能維持・向上に関わる手芸活動の重要性に関する研究
基盤研究(C)	家政学部・准教授 高野倉 睦子	簡易型高齢女性サーマルマネキンによる装着時の人体 —被服間の空気層の計測
基盤研究(C)	家政学部・教授 後藤 昌弘	ジャガイモの品種による物理化学的特性と食味におよぼす要因に関する研究
基盤研究(C)	家政学部・教授 佐藤 勝昌	保育所における食物アレルギー児に対する給食の栄養評価に関する研究
基盤研究(C)	家政学部・教授 栗原 伸公	カプサイシン、ジンゲロール摂取による高血圧予防のメカニズム
基盤研究(C)	文学部・教授 森 尚也	ベケット作品／草稿におけるテキストと図：ライブニットの組み合わせ術と存在論の研究
基盤研究(C)	文学部・教授 三保 忠夫	宮内庁書陵部所蔵蔵書についての日本語学的研究
基盤研究(C)	文学部・准教授 吉村(森本) 真美	19世紀イギリスの植民地間ヒト移動と帝国ネットワークの形成
基盤研究(C)	文学部・准教授 野口 和美	米国ババリック・ディプロマシーにおけるフィランソピーと政府の連携に関する研究
基盤研究(C)	健康福祉学部・准教授 津田 理恵子	懐かしさを活用した生きがいの維持・向上 —元気高齢者と虚弱高齢者への支援—
基盤研究(C)	健康福祉学部・講師 佐藤 誓子	食事管理を必要とする慢性疾患患者に対する保育所・学校の給食整備に関する研究
若手研究(B)	文学部・講師 鎌谷 かおる	日本近世における内水面の漁業権に関する基礎的研究
若手研究(B)	健康福祉学部・助教 松本 衣代	インドネシアにおける小児肥満予防／改善教育健康プログラム開発の試み
若手研究(B)	文学部・准教授 南 佑亮	構文理論の新しい可能性の探求 —Pretty構文の分析を通して—
若手研究(B)	幼児教育学科・准教授 畠山 由佳子	市町村における「家族維持を目的とした児童虐待在宅支援実践マニュアル」の開発的研究

※ゴシック文字は今年度新規採択(11件)



古典芸能研究センター 新規データベースの公開

古典芸能研究センターでは、開設10周年にあわせて、所蔵する資料をもとに新たなデータベースを3件作成しました。

- 1 古典芸能研究センター蔵 能番組データベース
- 2 檜書店旧蔵版木データベース
- 3 喜多文庫民俗芸能資料データベース

古典芸能研究センターのホームページ(<http://www.yg.kobe-wu.ac.jp/geinou/>)に、データベースへリンクしているバナーがありますので、そこからそれぞれのデータベースをご覧ください。

1. 古典芸能研究センター蔵 能番組データベース

古典芸能研究センター蔵 能番組データベースは、センター所蔵の能番組に記載された曲目および演者情報を、検索可能なデータベースとして作成したものです。

能番組は能狂言の上演の歴史や役者研究にたいへん有用な資料です。センター所蔵の伊藤正義文庫の中には「幕末明治京都等能番組」と仮称している番組集があり、一千枚を超える番組に江戸後期の京都を中心とした能狂言の催しが記録されています。そこで、この番組集にセンター所蔵の他の番組を加え、広く能狂言研究に役立てることを目的として本データベースを作成しました。



2. 檜書店旧蔵版木データベース

檜書店旧蔵版木データベースは、謡本・能楽専門出版社の檜書店から古典芸能研究センターへ寄贈された版木3,364枚を公開することを目的としています。

センター所蔵の版木は、大半は近代のもですが、少数ながら近世のものもあります。檜書店は、近世末期に謡本書肆の山本 長兵衛から版権を譲り受けた本屋です。近世の版木は、その山本 長兵衛が使っていたものです。一方、近代の版木の多くは明治30年代に檜書店によって新たに作られました。他の謡本書肆が明治半ばから石版刷に移行する中、檜書店は大正4年まで木版刷の謡本を刊行し続けました。この最後まで使われていた版木もセンター所蔵の版木に含まれています。

3. 喜多文庫民俗芸能資料データベース

喜多文庫民俗芸能資料データベースは、平成4年に本学に寄贈された民俗芸能研究家の故喜多 慶治氏の長年に渡る調査資料群の公開を目的としています。

調査された芸能の中には、すでに廃絶したものや変容してしまったものもあり、たいへん貴重です。調査期間は昭和30年代から50年代まで、調査地は本州・四国・九州のほぼ全域に至ります。

データベースでは、平成12年に公開したスライド写真(9,381点)に加えて、新たにカラーネガ(11,939点)・白黒ネガ(28,700点)・ネガ不明の現像写真を公開しています。また、喜多 慶治氏の調査ノートも一部データ化して閲覧できるようにしています。

(古典芸能研究センター 山崎 敦子)



第26回管理栄養士国家試験合格者発表 合格率97.4%

平成24年5月7日(月)に第26回管理栄養士国家試験の合格発表がありました。

神戸女子大学家政学部 管理栄養士養成課程の卒業生154名全員が受験し、150名が合格、合格率は97.4%でした。全体の受験者総数は21,268名、合格者数10,480名で合格率は49.3%、このうち管理栄養士養成課程新卒者の受験者総数は7,946名、合格者数は7,277名(合格率91.6%)でした。

大学院情報

大学院生の研究が公益財団法人日本科学協会の笹川科学研究助成に採択される



学長室にて採択された研究内容の報告をする三科さんと指導教員の梶木 典子准教授



データを整理する三科さん

神戸女子大学大学院家政学研究科 生活造形学専攻 博士後期課程の三科 綾さんが公益財団法人日本科学協会の笹川科学研究助成(学術研究部門)(注)に採択され、平成24年4月19日(木)の授与式に出席しました。採択された研究題目は「児童館で実施する地域安全マップ活動の普及版制作と有効性の検証」です。

三科さんは、まちづくりにおける「子どもの参画」を視点に研究を進めており、その方法の一つとして、「地域安全マップ活動」を取り上げています。

地域安全マップ活動は、子どもが犯罪や災害から自分の身を守るために、住んでいる地域の特徴を知り、家族や地域の人とコミュニケーションを深めることができる活動です。

三科さんが開発・実践してきたプログラムは、改良を重ね、完成度が高まってきましたが、より広く普及させるまでに至っていませんでした。

今回の助成に採択された研究テーマでは、これまで実施してきた地域安全マップ活動を基本に、より広く普及させるプログラムとして開発し、子どもの日常的な遊び場である児童館で実践します。そして、この活動の有効性を検証します。

なお、採択された三科さんの研究は、自身の阪神・淡路大震災の経験をいかし、子どもの意見を聴く活動として子どもを主体としたプログラム開発を行っており、これからの時代には非常に有用になることが評価されました。

(注)公益財団法人日本科学協会が、昭和63年度から日本財団の助成金を受けて、科学研究の将来を担う人材の育成とその研究を奨励し、科学研究の振興を図ることを目的とした研究助成事業。他からの研究助成が受け難い研究で、萌芽性、新規性及び独創性のある内容をもった研究の全国的な掘り起こしを行っている。



採択授与式の会場前にて

活躍する学生たち

2011年度「学生ボランティア団体支援事業」 助成大学・団体に神戸女子大学 AMDA神女クラブが採択される

平成24年1月31日(火)京都の学生情報センター本社において、財団法人学生サポートセンター主催の2011年度「学生ボランティア団体助成」表彰式が行われました。学生ボランティア団体への支援表彰は毎年応募の中から選考委員会の厳正な審査を経て選ばれるもので、2011年度は全国の大学の中から60団体が選定されました。そのなかで、神戸女子大学の「AMDA神女クラブ」が2010年度の「V-net+」に引き続き2年連続受賞の快挙となりました。

表彰理由

1. 災害に見舞われた人々への募金活動
2. AMDA兵庫県支部の「AMDAネパール子ども病院」支援活動のお手伝い
3. 大学祭参加：募金活動とともにAMDAグループの国際協力活動や当団体の活動を広く知ってもらうための展示やシンポジウムの実施、ボランティア団体との共催フリーマーケットの実施
4. ワン・ワールド・フェスティバル(関西国際交流団体協議会)へのボランティア参加
5. 月2回のミーティングでAMDAの活動報告などを資料として国際貢献への理解を深めている



左より波田 重昭学長、AMDA神女クラブ代表の田中 碧さん(3年生)、前代表の藤川 美美さん(4年生)、吉岡 志津世教授(学年は受賞時)

学生プロジェクトプラン・コンペ2011 「みんなに知ってもらいたい!! 兵庫自慢プロジェクト」で 家政学部家政学科の学生が優秀賞を受賞

平成24年2月19日(日)兵庫県立美術館ミュージアムホールにおいて、大学コンソーシアムひょうご神戸 学生交流委員会主催の学生プロジェクトプラン・コンペ2011「みんなに知ってもらいたい!! 兵庫自慢プロジェクト」の最終選考会が開催されました。応募総数89件のなかから神戸女子大学家政学部 家政学科3年生(受賞時)の笹井 しおりさんが「輝く須磨づくり」というテーマで優秀賞を受賞しました。最終選考会ではパネル審査とプレゼンテーション審査があり、パネル審査では須磨海岸のアピールのために海岸の砂やイルミネーション模型など工夫を凝らした展示を行い審査員に対して丁寧に説明をしました。プレゼンテーション審査ではトップバッターという緊張にも負けず堂々とそして元気よく笑顔で発表したことにより、審査員から高評価を得ての受賞となりました。



表彰状を手にする笹井 しおりさん(左)と大学コンソーシアムひょうご神戸 学生交流委員会メンバーの梶木 典子准教授

「近畿フルーツ・レンジャープロジェクト」で 管理栄養士養成課程の学生が表彰される



神女大の受賞者を囲んでフルーツ・レンジャー、近畿農政局の方々、田中 紀子教授とともに記念撮影

平成24年3月2日(金)大阪市中央卸売市場業務管理棟大ホールにおいて、近畿農政局、日本園芸農業協同組合連合会大阪事務所主催の「近畿フルーツ・レンジャープロジェクト」表彰式が開催されました。大学生から提出された85件のアイデアの中から、新規性、独創性に優れ、果物の購買意欲や利用意欲につながり、実現可能なものといった観点から審査が行われ、神戸女子大学家政学部 管理栄養士養成課程1年生の栗 麻南美さんが近畿農政局長賞、他6名の学生が特別賞を受賞しました(注)。近畿農政局長賞を受賞した栗さんは「みかんは食べるだけじゃない皮にもこんな活用法が!」というアイデアを提案しました。みかんに関心がない人に、その魅力を伝える方法を考え、自分自身がみかんの香りが好きだということから、食べるだけではなく、みかんの皮まで有効に利用できることを美味しくそのみかんの絵入りの明るいPOPにしてアピールしました。栗さんは、近畿農政局長賞の他に、特別賞の「使いたいで賞」、「使えるで賞」、「審査員賞」も受賞しました。受賞した学生達のアイデアは、固定観念にとらわれない斬新な発想と若い感性が活かされたもので、日頃の学習している栄養に関する知識が融合されたものでした。

(注)受賞者と特別賞の内容

- | | | |
|----------|-------|--------------------------------|
| 栗 麻南美さん | (1年生) | 「近畿農政局長賞」「使いたいで賞」「使えるで賞」「審査員賞」 |
| 中本 典子さん | (2年生) | 「真新しいで賞」「審査員賞」 |
| 知野見 芽生さん | (1年生) | 「使えるで賞」「審査員賞」 |
| 榎 安佳利さん | (1年生) | 「実用化第1号で賞」「審査員賞」 |
| 大塚 華子さん | (1年生) | 「ベストレポート賞」 |
| 春日 菜摘さん | (1年生) | 「アクティブ賞」 |
| 中元 佳奈さん | (2年生) | 「ワンポイント大果賞」 |

(管理栄養士養成課程 学年は受賞時)



教育研究活動

国際交流

交流年表

(姉妹提携等)

1983年	ハワイ大学(米国)	2007年	チェンデラワシ大学(インドネシア)
1993年	ケント大学(英国)	2010年	ウダヤナ大学(インドネシア)
1997年	フライブルク大学(独国)	2010年	西安工程大学(中国)
2000年	華南師範大学(中国)	2010年	カセサート大学(タイ)
2006年	ガジャマダ大学(インドネシア)	2010年	高麗大学(韓国)
2006年	オークランド工科大学(ニュージーランド)	2011年	チェンマイ大学(タイ)
2006年	ピッツァー大学(米国)	2011年	カリフォルニア州立ポリテクニク大学ポモナ校(米国)
		2012年	アイルランガ大学(インドネシア)

タイ国立チェンマイ大学において初の文学部神戸国際教養学科「オフ・キャンパス・プログラムⅢ」を実施



英語の授業風景



タイ文化学習



チェンマイ大学プログラム責任者とタイ民族衣装で記念撮影

2011年1月に神戸女子大学波田 重熙学長は学生交流及び大学間の連携を促進するために、タイ国立チェンマイ大学と国際学生文化交流プログラムの覚書に調印しました。その第一歩となる文学部神戸国際教養学科の「オフ・キャンパス・プログラムⅢ」が実施され、5名の学生が9月から約6ヶ月間にわたる第1回目のプログラムに参加しました。

このプログラムは、チェンマイ大学語学研修センターでの英語及びタイ語・文化学習と現地でのインターンシップで構成され、タイにおける文化や社会についての知識を身につけることを目標としています。

前半の英語学習では、英語を母語とする教員から英語の4技能(listening, speaking, reading, writing)、観光英語、プレゼンテーションの方法について学び、タイ語の授業では、文字をはじめ会話を学習しました。タイ語会話の授業では、日常生活での会話を学び、実際に近隣のマーケットに出向き、タイ語を使う練習も行いました。タイ文化学習として、伝統舞踊を習い、11月のローイ・クワトン(灯籠流し)祭にて練習の成果である舞踊を披露しました。

冬休みには、バンコクなどに赴き、水族館、水上マーケット、寺院を訪問し、文化と歴史を学ぶなど有意義な時間を過ごしました。

後半のインターンシップにおいては、市内のホテル、チェンマイ大学語学研修センターでの日本語教授や国際センターでの事務の仕事に携わりました。

学生たちは、身近なアジアにもかかわらず情報が少なく、文化についても未知の部分が多いことから、自分の目でタイとはどんな国なのか確かめたくて参加を決めました。博物館を訪れることはもとより、文化遺産や史跡を積極的に見て回りました。

生活習慣は当然、日本と異なる面もありましたが、日常生活をともにするうちに、タイの方の心配りの細やかさや目上の人に対する礼儀正しい態度にしばしば感心したということです。

滞在期間中に英語の力が上達し、タイ語で日常会話ができるようになりました。何よりも学生たちは自分自身の情報発信力が上達したと言っています。そして日本の文化、日本語の微妙な使い方についての知識をさらに多くもたなければならないと強く感じたようです。人とつながりは、はじめての出会いから大きく広がるものなのだというのも実感できたようです。

※オフ・キャンパス・プログラム：アジア・アメリカ・ヨーロッパにおける海外語学短期研修及び語学研修とインターンシップ組み込み型海外長期研修。海外スタディツアー。

インドネシア国立アイルランガ大学と「教育及び研究関連活動に関する覚書」を締結

神戸女子大学波田 重熙学長は、2012年5月16日にインドネシア共和国のスラバヤ市にあるアイルランガ大学との教育及び研究関連活動に関する覚書に調印しました。両大学の学生及び学術交流を促進することを目標とし、学生及び教員の共同研究、文化・学術交流が深まることが期待されます。

※チェンマイ大学：タイ王国タイ北部地域のチェンマイ市に設立された国立大学。1964年に設立された。

※アイルランガ大学：インドネシア共和国東ジャワ州スラバヤ市東スラバヤ区に本部を置く国立大学。1954年に設立された。

インドネシア国立ウダヤナ大学 医学部の学生が研修のため来学



左からコミンさん(Ni Nyoman Sri Adnyani)、アルタさん(I Made Subagiarta)、
チャンドラさん(I Gede Candra Kardana Noprasetyo)、ウタさん(Made Utari Rimayanti)



バリ島における旅行者医療の現状についてプレゼンテーションを行う

2012年1月23日(月)～2月23日(木)の1ヶ月間、本学との大学間教育研究交流提携を結んでいるインドネシア国立ウダヤナ大学医学部の学生4名が来日し、神戸女子大学健康福祉学部 of 梶原 苗美学部長指導のもと、講義、実験・実習に参加しました。

研修学生4名は、初めての場所ではいつも男性がチャンドラ、アルタ、女性はコミン、ウタという愛称で自己紹介し、本学の学生と研修初日から愛称で呼び合うなど打ち解けた雰囲気での交流が始まりました。

彼らは、社会福祉・健康スポーツ栄養の両学科の専門科目のいくつかを受講するとともに、健康スポーツ栄養学科の学生とインドネシアの公衆衛生



「生活支援技術I」(津田 理恵子准教授担当)で、介護の技術を学ぶ

医療についてディスカッションを行い、梶原学部長や谷口 洋客員教授、ゼミ生たちにバリ島における旅行者医療の現状についてプレゼンテーションをしました。須磨キャンパスでは、日本語日本文学部の学生に日本語を学び、他学科の留学経験のある学生とも交流を深めました。学外では、神戸大学附属病院や民間の医療機関の臨床現場での研修により実態を学びました。

学内や地域連携のイベントにも参加し本学の学生や地域の方々との交流を深めました。ぎっしり詰まったスケジュールの合間に、子どもの頃からレッスンを受けていたバリダンスを須磨・ポートアイランドの両キャンパスで披露。指先まで神経の行き届いた本格的なバリダンスに本学の教職員、学生は盛大な拍手をおくりました。

研修生たちは、明るく陽気で、何事においても積極的に興味をもって取り組んでいました。日本語会話力の上達は目覚しく(元々勉強してきたようですが)、その姿勢は見習うべき点が多く一緒に学んだ本学の学生も短期間ではありましたが、有意義な時間が過ごせました。日本で学んだ知識を今後の自分たちの学習に生かしてさらに大きく飛躍されることでしょう。インドネシアに親しみ、ウダヤナ大学との交流が深まった1ヶ月でした。



バリダンスを披露



※ウダヤナ大学：インドネシア共和国バリ島デンパサールにある国立大学。1962年に設立された。